



# おにぎり通信

2022年11月26日(土曜) 四ツ谷おにぎり仲間

こんにちは！私たちは毎週土曜日に、四ツ谷、銀座、日比谷、秋葉原、日本橋、東京駅周辺で生活されている方々を訪問しているボランティアグループです。

風邪やインフルエンザが流行る季節になってきました。新型コロナウイルスの感染対策のおかげで、寒くなっても風邪やインフルエンザが流行らない年が続きましたが、この冬は少し様子が違うみたいです。人々の行動が元に戻ってきていることに加えて、コロナに気を付けて生活するうちに、いろんなウィルスに触れる機会が減ったため、我々の免疫がどうやら弱くなってしまっているようです。今まで以上に風邪を引きやすい身体になっているかもしれませんので、手洗いなどの予防をしっかりとすることが大切です。

## ◇福祉行動報告

Aさん(70代) 生活保護申請のため、大田区福祉事務所に行き、当面の生活拠点として、大田区内にある簡易宿泊所に入居しました。

福祉行動を希望の方は、おにぎりを配る時に、お声がけください。

病院や生活相談等で、福祉事務所に行くことを希望される方は、おにぎりをお渡しに伺った際に声がけ下さい。毎週土曜日の訪問活動の時に声がけ頂いた場合、翌週以降に福祉事務所まで同行します。

中央区福祉事務所・中央区築地1-1-1 中央区役所4階

千代田区福祉事務所・千代田区九段南1-2-1 千代田区役所3階



おにぎりを包むラップや読み終わった通信は、放置せずゴミ箱へ



おにぎりは、お1人1個で、その日のうちに召し上り下さい



四ツ谷おにぎり仲間 千代田区麹町6-5-1 聖イグナチオ教会  
連絡先 080-7967-8672 (連絡可能時間 毎週土曜日午後3時~6時)

## 【マイホーム山谷<sup>さんや</sup>】

「マイホーム山谷<sup>さんや</sup>」という本<sup>ほん</sup>が、小学館<sup>しょうがっかん</sup>ノンフィクション大賞<sup>たいしょう</sup>を受賞<sup>じゅしょう</sup>しました。山谷<sup>さんや</sup>で2002年に民間ホスピス<sup>ねん みんかん</sup>「きぼうのいえ」を建てた山本<sup>た やまもと</sup>さん夫妻<sup>ふさい と あ</sup>を取り上げた本<sup>ほん</sup>です。夫妻<sup>ふさい</sup>は、山田洋次<sup>やまだようじかん</sup>監督<sup>とく</sup>の映画<sup>えいが</sup>「おとうと」のモデル<sup>ばんぐみ</sup>となり、NHKの番組<sup>とくしゅう</sup>で特集<sup>あつ</sup>されるなど、「理想<sup>りそう</sup>のケア<sup>じつげん</sup>」を実現<sup>じんぷつ</sup>した人物<sup>ちゅうもく</sup>として注目<sup>あつ</sup>を集めました。ところが、現在の「きぼうのいえ」に山本夫妻<sup>やまもとふさい</sup>はいません。夫<sup>おっと</sup>は、施設長<sup>しせつちょう</sup>を辞め<sup>や</sup>させられ、介護<sup>かいご</sup>と生活保護<sup>せいかつほご</sup>を受けながら山谷<sup>さんや</sup>で暮ら<sup>く</sup>します。妻<sup>つま</sup>は、NHK番組<sup>ばんぐみ</sup>が放送<sup>ほうそう</sup>された翌日<sup>よくじつ</sup>に施設<sup>しせつ</sup>を出て、行方<sup>ゆくえ</sup>をくらませました。

「きぼうのいえ」は、インドにあるマザー・テレサの「死を待つひとびと<sup>い</sup>の家<sup>え</sup>」をイメージした看取り<sup>みと</sup>の施設<sup>しせつ</sup>として作<sup>つく</sup>られました。路上<sup>ろじょう</sup>生活<sup>せいかつ</sup>のまま歳<sup>とし</sup>をとった人<sup>ひと</sup>や、家族<sup>かぞく</sup>と縁<sup>えん</sup>が切<sup>き</sup>れて頼<sup>たよ</sup>る者<sup>もの</sup>がいない人<sup>ひと</sup>、そのほか何<sup>なん</sup>らかの理由<sup>りゆう</sup>で生活<sup>せいかつ</sup>が立ち行<sup>た</sup>かなくな<sup>ゆ</sup>った高年齢<sup>こうれいしゃ</sup>者<sup>じゅうびょうにん</sup>や重病<sup>じゅうびょうにん</sup>人を積極的に受け入<sup>せ</sup>れます。外<sup>う</sup>出<sup>い</sup>の付き添<sup>がいしゅつ</sup>いやお金の管理<sup>つそ</sup>など、生活<sup>かね</sup>の細<sup>こま</sup>かいところまで気<sup>き</sup>を配<sup>くば</sup>り、最<sup>さい</sup>期<sup>ご</sup>の時<sup>とき</sup>を迎<sup>むか</sup>えるまでスタッフ<sup>かぞく</sup>たちが家族<sup>きゆうきよしゃ</sup>のように入居<sup>よ</sup>者に寄り添<sup>しせつ</sup>う施設<sup>だれ</sup>です。いつも誰<sup>い</sup>かが居<sup>い</sup>て、何かと助<sup>たす</sup>けてくれるドヤ、と言<sup>い</sup>ったほう<sup>わ</sup>が分<sup>わ</sup>かりやす<sup>し</sup>いかも知<sup>し</sup>れません。

山谷<sup>さんや</sup>は、今<sup>いま</sup>や「労働者<sup>ろうどうしゃ</sup>の街<sup>まち</sup>」ではなく、密集<sup>みっしゅう</sup>するドヤ<sup>もと</sup>やアパ<sup>ふくし</sup>ート<sup>まち</sup>を基<sup>すこ</sup>にした「福祉<sup>じぶん</sup>の街<sup>じかん</sup>」です。少<sup>すこ</sup>し<sup>く</sup>くらい自<sup>じ</sup>分の時<sup>じぶん</sup>間<sup>じかん</sup>を削<sup>けず</sup>ってでも困<sup>こま</sup>っている人<sup>ひと</sup>に寄り添<sup>よ</sup>おうとい<sup>そ</sup>う想<sup>おも</sup>いを持<sup>も</sup>った人間<sup>にんげん</sup>が多<sup>おほ</sup>く集<sup>あつ</sup>まってきて、生活<sup>せいかつ</sup>保護<sup>ほご</sup>や医療<sup>いりょう</sup>・介護<sup>かいご</sup>保険<sup>ほけん</sup>などの公<sup>こう</sup>的<sup>てき</sup>なサー<sup>とど</sup>ビス<sup>とど</sup>の届<sup>とど</sup>かないところをボランティア<sup>だんたい</sup>団体<sup>おぎな</sup>がつなが<sup>す</sup>って補<sup>ひと</sup>い、住<sup>す</sup>む人<sup>ひと</sup>たちをみ<sup>み</sup>んなで支<sup>さ</sup>える仕<sup>し</sup>組<sup>く</sup>みができあ<sup>やまもとふさい</sup>がっています。山本<sup>さんや</sup>夫妻<sup>し</sup>は、こう<sup>さんや</sup>した山谷<sup>し</sup>の仕<sup>し</sup>組<sup>く</sup>みができ上<sup>あ</sup>がるのに身<sup>み</sup>も心<sup>こころ</sup>も捧<sup>ささ</sup>げましたが、捧<sup>ささ</sup>げ過<sup>す</sup>ぎて力<sup>ちから</sup>尽<sup>つ</sup>きてしま<sup>つ</sup>ったのかも知<sup>し</sup>れません。しかし、立ち上<sup>たあ</sup>げた「きぼうのいえ」は、ちゃ<sup>う</sup>んと受け継<sup>つ</sup>がれ、生活<sup>せいかつ</sup>に困<sup>こま</sup>っている人<sup>ひと</sup>たちを受け入<sup>う</sup>れ続<sup>い</sup>けています。